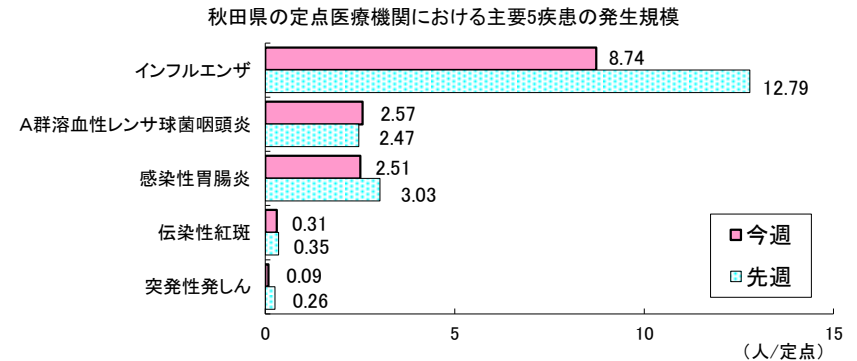




**【第9週の発生動向】**

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

1. インフルエンザは、県全体で32%減少しています。保健所別では、横手で増加、秋田市、大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、湯沢で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で4%増加しています。保健所別では、大館、秋田中央、由利本荘、横手で増加、秋田市、大仙、湯沢で減少しています。
3. 感染性胃腸炎は、県全体で17%減少しています。保健所別では、大館、由利本荘、横手、湯沢で増加、秋田市、北秋田、能代、秋田中央、大仙で減少しています。



**発生報告**

＜五類定点対象疾患(週報)＞

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減	第8週	第9週	増減			
RSウイルス感染症	0.06		↘	0.14		↘									0.25		↘													
インフルエンザ	12.79	8.74	↘	16.45	10.27	↘	8.50	4.57	↘	7.00	5.00	↘	18.50	11.25	↘	19.83	11.33	↘	6.50	4.33	↘	10.43	7.29	↘	5.20	6.00	↗	18.80	18.40	↘
咽頭結膜熱	0.15	0.03	↘												0.50		↘	0.25	0.25					0.33		↘	0.25		↘	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.47	2.57	↗	4.00	3.71	↘		0.25	↗						3.25	6.50	↗	4.00	5.50	↗	1.75	0.75	↘	0.33	2.00	↗	4.75	1.50	↘	
感染性胃腸炎	3.03	2.51	↘	4.29	2.57	↘		0.25	↗	5.50	2.00	↘	5.00	3.67	↘	4.00	3.00	↘	0.25	0.75	↗	1.00	0.25	↘	3.33	5.00	↗	4.00	5.75	↗
水痘	0.09	0.06	↘		0.14	↗	0.33		↘									0.25		↘		0.25	↗	0.33		↘				
手足口病																														
伝染性紅斑	0.35	0.31	↘	0.29	0.14	↘	3.33	2.00	↘										0.50	↗										
突発性発しん	0.26	0.09	↘	0.43		↘		0.25	↗	2.00		↘							0.25	↗				0.33	0.33		0.25		↘	
ヘルパンギーナ		0.03	↗								0.50	↗																		
流行性耳下腺炎	0.03	0.06	↗																		0.25	0.50	↗							
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*		
流行性角結膜炎	0.29		↘	0.67		↘				*	*		*	*		*	*									*	*			
細菌性髄膜炎															*	*														
無菌性髄膜炎															*	*														
マイコプラズマ肺炎	0.88	0.38	↘							5.00	3.00	↘			*	*		1.00		↘							1.00		↘	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*														
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)															*	*														

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
 「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、能代保健所管内から1人、秋田中央保健所管内から1人、大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のレジオネラ症が横手保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の百日咳が横手保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-8週 全国	秋田	9週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	2733	11	4
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	10		
	腸管出血性大腸菌感染症	156		
	腸チフス	5		
	パラチフス	3		
四類	E型肝炎	57		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	84	6	
	エキソコックス症	1		
	黄熱			
	オウム病	2		
	オムスク出血熱			
	回帰熱			
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	1		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	1		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
タニ媒介脳炎				
炭疽				

トピック

<肺炎球菌感染症とワクチンについて>

肺炎球菌は、健康な人でも鼻や喉の奥に常在している細菌です。しかしながら、肺炎球菌による感染症は、重症化すると髄膜炎や菌血症といった侵襲性肺炎球菌感染症を引き起こします。小児では肺炎を伴わず発熱のみを初期症状とする感染巣のはっきりしない菌血症や髄膜炎が多くみられるのに対して、成人では肺炎に伴った菌血症が多くみられるのが特徴です。

■肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌ワクチンには、小児向けの「沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン」と、高齢者向けの「23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン」があります。小児では、初回接種については生後2か月以降~7か月までの間に接種を開始し、27日以上の間隔をおいて3回、追加接種については3回目の接種を行ってから60日以上の間隔をおいて1回の接種を行うのが標準的なワクチン接種スケジュールとなっています。また、主に65歳以上で、今年度中に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳となる方は、「23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン」の定期接種を1回受けることができます。定期接種の対象となる方は、表のとおりです。ただし、過去に高齢者を対象にしたこのワクチンを接種したことがある方は、定期接種の対象となりません。予防接種に関するご相談は、お住まいの市町村、かかりつけの医療機関等にお問い合わせください。

表:平成30年度の高齢者向け肺炎球菌ワクチン定期接種対象者

対象者① 平成30年度に	生年月日
65歳となる方	昭和28年4月2日生 ~ 昭和29年4月1日生
70歳となる方	昭和23年4月2日生 ~ 昭和24年4月1日生
75歳となる方	昭和18年4月2日生 ~ 昭和19年4月1日生
80歳となる方	昭和13年4月2日生 ~ 昭和14年4月1日生
85歳となる方	昭和 8年4月2日生 ~ 昭和 9年4月1日生
90歳となる方	昭和 3年4月2日生 ~ 昭和 4年4月1日生
95歳となる方	大正12年4月2日生 ~ 大正13年4月1日生
100歳となる方	大正 7年4月2日生 ~ 大正 8年4月1日生
対象者② 60歳から65歳未満の方	心臓、腎臓、呼吸器の機能に自己の身の日常生生活活動が極度に制限される程度の障害やヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に日常生活生活がほとんど不可能な程度の障害がある方

類型	疾患名	(人)		
		1週-8週 全国	秋田	9週 秋田
四類	チクングニア熱	1		
	つつが虫病	40		
	デング熱	41		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	4		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症			
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症			
	マラリア	5		
	野兔病			
	ライム病			
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	219	1	1	
レプトスピラ症				
ロッキー山紅斑熱				
五類	アเมอร์バ赤痢	115	3	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	46		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	291	3	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	11		
	急性脳炎	264	3	
	クリプトスポリジウム症			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	25		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	161	1	
	後天性免疫不全症候群	145		
	ジアルジア症	6		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	114	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	11		
	侵襲性肺炎球菌感染症	620	4	
	水痘(入院例に限る)	59		
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	834	2	
	播種性クリプトコックス症	20		
	破傷風	8		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	10			
百日咳	2332	33	2	
風しん	650	2		
麻しん	258			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	4			



2018年/2019年シーズン (2018年第36週: 9月3日～) インフルエンザ情報

定点あたり患者数の推移(インフルエンザサーベイランス)

インフルエンザの発生規模が、県全体で警報継続基準値である10を下回りました。

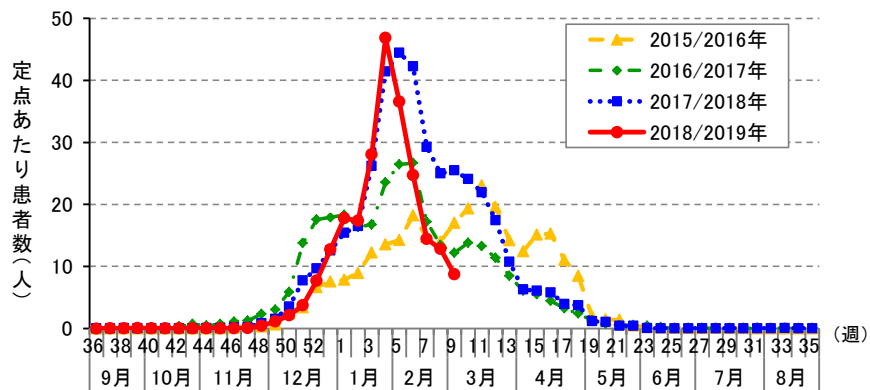


図 秋田県におけるインフルエンザ患者の発生状況

インフルエンザ入院サーベイランス

表: 2018/2019シーズン 秋田県におけるインフルエンザによる入院患者報告数

患者数 (人)			
秋田県		全国	
2/25～3/3 (9週)	累計	2/18～2/24 (8週)	累計
11	245	681	18,211

○入院サーベイランスの報告数は、秋田県内8か所、全国約500か所の基幹定点医療機関からの報告です。全国の報告数は公表前のため、1週間遅れの数値になります。

社会福祉施設等におけるインフルエンザ集団発生状況

インフルエンザによる集団発生が10件報告されました。

No	所在地	施設名	報告日	有症者数		
				利用者(園児、入所者等)	職員	計
121	大館市	西館保育園	2/25	64 名のうち 10 名	18 名のうち 1 名	11 名
122	男鹿市	脇本保育園	2/25	92 名のうち 11 名	26 名のうち 1 名	12 名
123	秋田市	川添保育所	2/25	66 名のうち 22 名	23 名のうち 2 名	24 名
124	三種町	浜口保育園	2/26	66 名のうち 10 名	18 名のうち 0 名	10 名
125	三種町	下岩川保育園	2/26	19 名のうち 9 名	6 名のうち 2 名	11 名
126	潟上市	二田保育園	2/26	85 名のうち 12 名	31 名のうち 0 名	12 名
127	大仙市	せんぼくちびっこらんどみどり園	2/26	166 名のうち 9 名	24 名のうち 2 名	11 名
128	湯沢市	雄勝中央病院(4階北病棟)	2/26	48 名のうち 7 名	25 名のうち 3 名	10 名
129	大館市	扇田保育園	2/27	102 名のうち 11 名	37 名のうち 0 名	11 名
130	秋田市	くれよんハウス	2/27	59 名のうち 10 名	18 名のうち 0 名	10 名

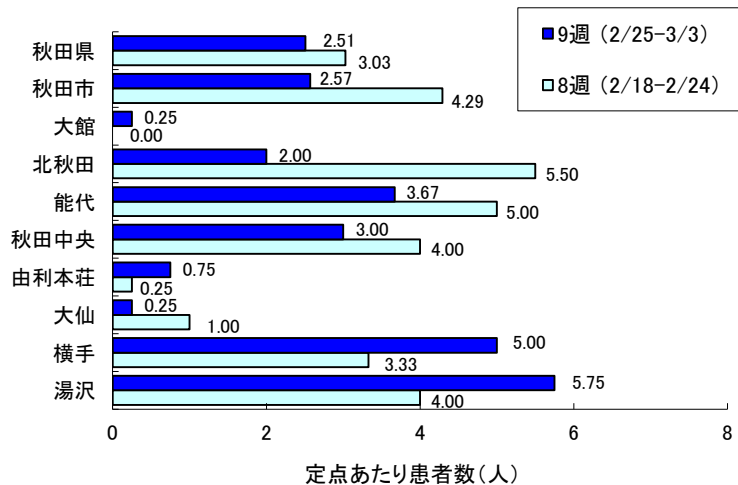
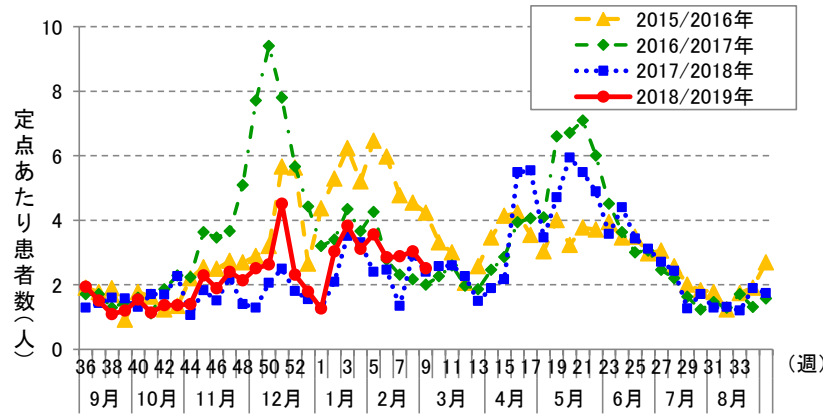
【インフルエンザの集団発生状況】

- 今シーズン(3月3日時点)の報告数  
130施設: 社会福祉施設31、保育所・幼稚園88、病院11
- <参考>  
○昨シーズンの年間報告数  
170施設: 社会福祉施設44、保育所・幼稚園119、病院7

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。



感染性胃腸炎情報



社会福祉施設等における感染性胃腸炎の集団発生について

感染性胃腸炎の集団発生報告が1件ありました。

No	所在地	施設名	報告日	有症者数			把握期間	症状	備考
				利用者(園児、入所者等)	職員	計			
54	湯沢市	湯沢乳児保育園	2/25	49名のうち17名	23名のうち1名	18名	2/19 ~ 2/25	嘔吐、下痢	ノロウイルスを検出

【感染性胃腸炎の集団発生状況】

○平成30年度(3月3日時点)の報告数

54施設 有症者740名: 社会福祉施設6、保育所・幼稚園47、病院1

<参考>

○平成29年度の年間報告数

42施設 有症者637名: 社会福祉施設8、保育所・幼稚園34

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。

感染症の集団発生報告

かぜ様症状の集団発生報告が1件ありました。

所在地	施設名称	報告日	有症者数			把握期間
			利用者(園児、入所者等)	職員	計	
男鹿市	特別養護老人ホーム寿恵園	3/1	94名のうち12名	54名のうち0名	12名	2/27 ~ 3/1



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
インフルエンザ	湯沢(18.40)	秋田市(10.27)、能代(11.25)、秋田中央(11.33)
伝染性紅斑	-	大館(2.00)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、湯上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		